

公益社団法人鹿児島青年会議所

2021年度 郷土づくり委員会 事業計画

委員長 門園 均

設置背景	何もかもがあふれている現代社会において地域の歴史や文化に関する情報は埋もれがちであり、伝統文化に触れる機会が少なくなっています。先人の知恵と現代の感覚の融合を通して、次世代に継承していく必要があります。
設置目的	メンバーや市民が郷土の誇れる伝統文化の魅力を理解し、郷土愛をもった人財になるとともに、持続的に継承していける機会を提供することを目的とします。
職務分掌	1) 鹿児島祇園祭の参加窓口及び運営 2) 一番神輿及びこども神輿の運営 3) 郷土の誇れる伝統・文化に関する調査研究・提言 4) 兄弟J C交流に関する企画・実施
S D G s	【11・17】
政策手法	(鹿児島祇園祭の参加窓口及び運営) 鹿児島祇園祭を安全かつ円滑に開催するため「鹿児島おぎおんさゑ振興会」「鹿児島祇園睦会」「一番神輿を担ぐ会」と協力関係を築き、一番神輿の参加窓口となり運営を行います。 (一番神輿及びこども神輿の運営) ①安全・安心を第一に考え、一番神輿やこども神輿の運営を行います。 ②担ぎ手の人財確保に対して検討し、新たなアプローチを取り入れることで持続可能な運営となるようパートナーシップを築きます。 (郷土の誇れる伝統・文化に関する調査研究・提言) 鹿児島の誇れる伝統文化、歴史を調査研究し、メンバーや市民にその魅力を伝える機会を設けることで次世代に継承していくための提言を行います。 (兄弟J C交流に関する企画・実施) ①兄弟J Cや他地域で同じ志をもつ仲間の活動と運動を理解し交流することで、さらなるまちとまちとの活性化につなげます。 ②40周年を迎える薩長土肥の会を企画・実施することで、さらなるパートナーシップ強化につなげます。
ビジョン	我々メンバーや市民が伝統文化をしっかりと理解し伝えることにより郷土への愛着が生まれ、脈々と次世代へ受け継がれていくことが世界に誇れる鹿児島の実現につながると確信いたします。
パートナー	一番神輿を担ぐ会・睦会・鹿児島商工会議所（おぎおんさゑ運営協力） 志学館大学・国際大学・キワニスクラブ（おぎおんさゑ担ぎ手協力） 公益社団法人中条青年会議所・公益社団法人枕崎青年会議所・公益社団法人川内青年会議所（協力）

公益社団法人 鹿児島青年会議所

2021年度 調査分析シート

鹿児島県民の「文化芸術の振興」に関する意識調査

①文化芸術に関わる活動をしたことはありますか。

- ・特に行ったことはない。 46.8%
- ・地域の芸能や祭りへの参加。 27.0%

②どうすれば鑑賞以外の活動にもっと参加しやすくなると思いますか。

- ・住んでいる地域や近くで活動が行われる。 62.4%
- ・魅力ある内容の活動が行われる。 49.6%
- ・情報が入手しやすくなる。 36.2%

参考：第5回 県政モニターアンケート調査結果 文化振興課 文化振興係
令和2年7月 実施分より抜粋

分析

伝統文化芸能などに対しての県民の関心は高いように思う。しかし、実際に体験したり参加したことのない人が5割弱にのぼる。伝統文化芸能に触れ、体験・参加のしやすい環境を整えることが必要だと思われる。

公益社団法人 鹿児島青年会議所
2021年度 調査分析シート
伝統文化と新型コロナウイルス感染症との関わり方に関する調査

新型コロナウイルス感染症に対する文化芸術活動への自治体支援情報

・鹿児島市

鹿児島市文化芸術団体等感染症予防対策支援補助金

鹿児島市では、新型コロナウイルス感染症の影響下において、文化芸術活動を継続又は再開する文化芸術団体等を支援するため、感染症予防対策物品の購入等を行う団体等に対し、鹿児島市文化芸術団体等感染症予防対策支援補助金を交付します。

- ・補助額：上限額5万円(補助率10分の10) 千円未満の端数は切り捨て、予算の範囲内で交付します。
- ・募集期間：令和2年10月1日（木）から令和3年1月31日（日）まで(消印有効)
- ・担当課：市民局市民文化部文化振興課（TEL：099-216-1501、FAX：099-216-1128）

コロナ禍での祭事例

・東京・浅草神社「三社祭」

大行列や「町神輿」は中止したが、神社の御神霊を神輿に乗せる「宮神輿」は御用車（トラック）で運ぶ方法で実施。神事はライブ中継で実施。

・「オンライン夏祭り2020」企画・運営（株）オマツリジャパン

「阿波踊り」（徳島県）、「エイサー」（沖縄県）、「泉州音頭」（大阪府）、「桐生八木節」（群馬県）、「中野駅前大盆踊り大会」（東京都）、「牛深ハイヤ」（熊本県）がインターネット上で集結しYoutubeやTwitterライブで配信。

分析

新型コロナウイルス感染症の流行により、2020年各地の伝統行事、祭事の中止が相次いだ。おぎおんさあもその限りではない。各地の自治体や関係団体はどうか開催できるよう「3密」や検温などの対策を講じるが実際の開催にはかなわなかった。「三社祭」の御用車での練りに関しては、意義は異なるが例年、鹿児島でも中郡は一之宮神社の豊穰祭における神輿行列の際にも行われている（2020年は中止）。また各祭事においてYoutubeなどでのライブ配信などの利用が多くみられた。踊りなどの祭事に関しては「3密」対策など比較的できようが、こと神輿に関してはなかなか難しく、より一層のコロナへの正しい理解が必要になると思われる。

公益社団法人 鹿児島青年会議所

2021年度 調査分析シート

【鹿児島祇園祭の参加窓口及び運営】 【一番神輿及びこども神輿の運営】 について

1. 一番神輿参加数推移 (一番神輿を担ぐ会からの動員は除く)

	J Cメンバー	一般参加者	合計
2015	124名	201名	325名
2016	113名	143名	256名
2017	116名	87名	193名
2018	75名	85名	160名
2019	73名	97名	170名

2017年以降は1日開催中、本祭のみの人数を表示

2. 一般参加者理由

	紹介	SNS等	メディア媒体	協力	その他
2015	30名	0	0	168名	3名
2016	59名	0	0	84名	0
2017	44名	0	2名	43名	0
2018	42名	0	3名	40名	0
2019	51名	3名	1名	42名	0

3. こども神輿参加者推移

	こども神輿参加者	保護者	合計
2015	112名	56名	168名
2016	121名	63名	184名
2017	108名	41名	149名
2018	68名	47名	155名
2019	42名	25名	67名

中止

4. こども神輿参加者理由

	紹介	SNS等	メディア媒体	協力	その他
2015	64名	0	3名	44名	0
2016	71名	10名	0	40名	0
2017	38名	17名	0	53名	0
2018	46名	0	0	22名	0
2019	13名	0	0	25名	4名

分析

JCメンバーは会員数の減少に伴うが平均して5割から6割のメンバーが参加していて、一般参加者の動員は2日開催を考えれば安定しているように思われる。一番神輿、こども神輿ともに紹介と協力による参加が9割を占めていて、SNSやメディアの効果があまりみられない。

紹介や協力団体による参加動員を更に強化し、JCメンバーの参加率の向上を計るとともにSNSやメディアに代わる新たなアプローチが必要かと思われる。

公益社団法人 鹿児島青年会議所

2021年度 調査分析シート

【郷土の誇れる伝統・文化に関する調査研究・提言】について

※メンバー30人に口頭アンケートしました。

1. 伝統文化の継承は大切だとおもいますか？

はい	いいえ	どちらともいえない
28	0	2

2. おぎおんさぁ以外で鹿児島の伝統文化を知っていますか？

はい	いいえ
8	20

3. 2で、はいと答えた方。それは具体的に何ですか？

- ・ 妙円寺詣り
- ・ 川内大綱引き
- ・ 六月燈
- ・ 加治木くも合戦

分析

伝統文化の継承は必要だと思っているが、鹿児島の伝統文化自体を知らないメンバーが多い。知っていても行事や祭り事に限られている。我々が率先して伝統文化、工芸なども含め調査研究をしていくことが必要だと思われる。

過去の伝統文化の継承イベントについて

鹿児島の伝統文化	
文学	薩摩狂句
伝統音楽	島唄, 薩摩琵琶, 和太鼓
工芸品	薩摩切子, 薩摩焼, 大島紬, 薩摩ボタン, 和紙
民俗文化財	祭り, 太鼓踊り, 盆踊り
食文化	郷土料理, 焼酎
その他	方言, 歴史

参考：第5回 県政モニターアンケート調査結果 文化振興課 文化振興係
令和2年7月 実施分より抜粋

分析

各地で伝統文化の継承に関するイベントなどは自治体や関係団体により多数行われている。伝統芸能では講演や鑑賞が多く、文化・工芸・祭事に関しては体験型やワークショップなどの形が取り入れられている。鹿児島にも伝統芸能・工芸・祭事・食など多くの伝統文化があり、それぞれにあった形を通して継承していくことが必要だと思われる。

公益社団法人 鹿児島青年会議所

2021年度 調査分析シート

【兄弟JC交流に関する企画・実施】について

※メンバー30人に口頭アンケートしました。

1. 鹿児島JCには兄弟JCがいることを知っていますか？

はい	いいえ
24	6

2. 1ではいと答えた方。それは中条JCと山口JCだと知っていましたか？

両方知っていた	中条JCのみ	山口JCのみ
6	18	0

3. 2で両方知っていたまたは中条JCのみと答えた方。

中条JCと交流したことがありますか？

はい	いいえ
9	9

4. 2で両方知っていたまたは山口JCのみと答えた方。

山口JCと交流したことがありますか？

はい	いいえ
0	6

分析

中条JCと兄弟JCを結んでいることは知っていても、山口JCと結んでいることはあまり知られていない。特にJC歴の短い会員には周知されていなかった。中条JCとは京都会議での神輿サミットやおぎおんさぁ、中条大祭を通して交流があるが、山口JCとも互いに事業を理解し交流の場を模索することが必要だと思われる。

公益社団法人 鹿児島青年会議所
2021年度 調査分析シート
薩長土肥の会について

「薩長土肥」とは、江戸時代末期（幕末）に雄藩と呼ばれ、明治維新を推進して明治政府の主要官職に人材を供給した薩摩藩、長州藩、土佐藩、肥前藩4藩の総称。

「薩長土肥の会」は幕末の時代に明治維新を推進した薩摩、長州、土佐、肥前の四藩に所縁のある四つの青年会議所が集う会である。（薩摩：公益社団法人 鹿児島青年会議所／長州：一般社団法人 萩青年会議所／土佐：公益社団法人 高知青年会議所／肥前：一般社団法人 佐賀青年会議所）

毎年四つの青年会議所が持ち回りで開催しており、各青年会議所による一年の活動報告や懇親会を通して絆を深めている。「薩長土肥の会」は1981年に始まり、2021年に40年目を迎える。

分析

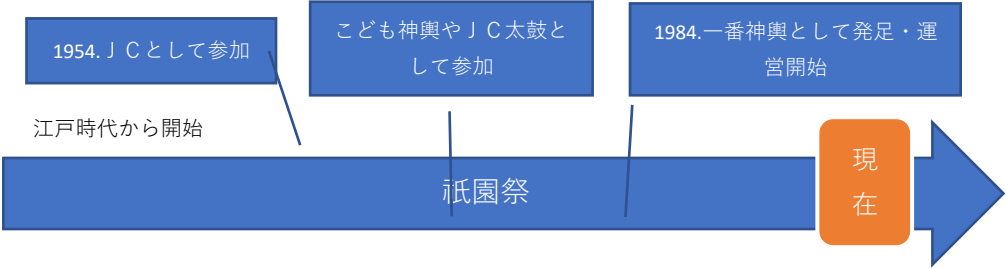
幕末の明治維新の礎となった4藩の集りで、各地の歴史を通して互いに理解を深め懇親会などでより絆を深める会である。2020年は鹿児島での開催予定だったが、コロナウィルス感染症拡大の影響によりWebでの開催が決定している。本来は4年に1度の持ち回りだが、2021年は対面での鹿児島開催予定。40年目の節目ということもあり、鹿児島の歴史だけでなく各地の歴史も含めより一層の調査が必要となる。

公益社団法人 鹿児島青年会議所
2021年度 調査分析シート
祇園祭と一番神輿の経緯

J Cの一番神輿を担ぐ経緯

	本格的スタート			
J C 歴	28年目以前	29年目	30年目	31年目以降
年号	1982	1983	1984	1985
理事長		米盛 正豪	西岡 岩男	吉丸 泰生
委員会名	指導力開発委員会	春祭り推進委員会	指導力開発委員会	郷土づくり
委員長		前田 利一郎	竹ノ内雄作	宮内 一声
内容	祇園祭にはJ C太鼓として参加	春祭り5か年計画の一つとして参加	事業としてでなく有志として実施	事業として発信
	事業でなく運動として参加		責任者：宮内 一声	

鹿児島と祇園祭の関わり～時系列～



歴史	概要	人名・参加員数
869	全国にある八坂神社を持つ地域は 祇園社主導 開催。開催基準は「 疫病退散 」つまり疫病が流行っている年のみ	初期の祇園祭
室町時代	応仁の乱など、戦がある際は、疫病も流行っているが開催を断念。	
江戸時代	鹿児島で初めて「祇園祭」開催。当時は、 諏訪大祭、稲荷やぶさめ、祇園祭 の3大祭り。現存は祇園祭のみ	
明治維新	祇園まつりは、 祇園社の管轄から八坂神社管轄へ	
祇園祭初期	一番神輿は、自衛隊・消防隊員交代で担いでいく。重量・大きさによって次第に薄れていく。	
1632	神輿作成（初期型）が始まったといわれる年。上町から下町へ受け渡された	寛永9年
1728	清水町に遷宮され、 鹿児島に八坂神社が生まれた	享保13年
1962	納屋通り商店街の青年部が祇園祭に初めて神輿を担ぎだす。	
1969	一番神輿が岩崎産業倉庫へ保管される	
1979	J C太鼓、こどもみこし先導として参加。	
1982	春まつり推進5か年計画実施の一つとして、「日本の代表的まつりの観客動員数及び内容を調査する」	前田 利一郎
1982	岩崎産業倉庫にて、13年間眠りつづけた一番神輿を青年会議所が見つける	

1983	7/24祇園祭 子供みこし、ＪＣ太鼓として参加：地域文化委員会 酒井登志夫	ＪＣ103人
1984	指導力開発委員会 竹之内雄作の元、責任者宮内一声を中心に ＪＣとして初めて担ぐ一番神輿 13年ぶりの神輿	ＪＣ120名+参加者29名 初代頭 竹之内雄作
1985	初めて「郷土（ふるさと）づくり」と委員会名を変更	2代目頭 宮内一声
1994	八坂神社が平ノ町から移転。現在の祇園之洲へ移る。	
1995	鹿児島祇園陸会 構想・発足へのあしがかり	
1999	鹿児島ＪＣが、女性市民神輿6番神輿を立ち上げる。	
2001	鹿児島祇園陸会発足	
2002	鹿児島祇園陸会より、締め込み姿での全員参加。	
2005	ＪＣでの子供みこし復活。一番神輿振興会発足	
2006	水害による本祭中止	
2012	7月11日、鹿児島祇園祭は、鹿児島市文化財保護条例第4条の 規定に基づき、鹿児島市無形民俗文化財に指定	大淵脇正太
2018	鹿児島での祇園祭150周年	立山修介
2019	大雨による本祭中止	渡邊卓真
2020	コロナウィルス感染症拡大による中止	濱田賢太郎

分析

1984年に鹿児島青年会議所としての一番神輿が初代頭 竹之内雄作先輩のもと2、3代目頭 宮内一声先輩が主導して開始された。神輿を担ぐ前もＪＣ太鼓として参加していたが、神輿を担ぎだすきっかけは、まちを元気にするという強い思い、祭りへの熱き想いが始まり。これまで脈々と引き継がれた想いが、「鹿児島市無形民俗文化財」へとつながった。祇園祭の最初の始まりの歴史は深く、疫病が流行した年の「疫病退散」が始まりである。

一番神輿に御神体を載せ、まちやひとの無病息災、悪疫退散、商売繁盛を願い粛々と渡行することで、祇園祭という神事であることを伝え、継承していくことに意義があると思う。

また青年会議所の先輩方が倉庫に眠っていた一番神輿を引っ張りだし担ぎ出したという熱い想いを途絶えさせることなく青年会議所が主導して祇園祭を盛り上げていくことが一番神輿の継承につながると考える。

参考資料：

「二十五年目のソイヤ」
「情熱活火山」
「商工会議所おぎおんさあの歴史」

作成者

平成二十年社団法人鹿児島青年会議所
平成十六年社団法人鹿児島青年会議所
商工会議所ＨＰより抜粋